核兵器・核実験モニター
NUCLEAR WEAPON & NUCLEAR TEST MONITOR

発行所：PCDS（太平洋軍備撤廃運動：Pacific Campaign for Disarmament and Security）／平和資料協同組合（準）
〒223 横浜市港北区区町町3・3-1
TEL：045-563-5101 FAX：045-563-9907 E-mail：peacedepot@y.email.ne.jp
編集責任者：梅林宏道
郵便番号：00280-0-38075 加入者名：平和資料協同組合

NPT再検討準備会での日本政府を検証する——
具体論ゼロ/アメリカの枠を一歩も出ない

NPT（核不拡散条約）再検討準備会（ブレ bambu）は4月18日に、目立った前進なく会を閉じた。核軍縮の推進、
とくに核兵器禁止条約（NWC）の交渉開始をめぐって、核兵器国と非核兵器国間で問題を提起してきたが、日本政
府はどのような立場をとったのか。非同盟諸国との協議を結びながら、検証した。日本政府の提案は、きわめて具
体的内容に乏しく、アメリカが甘やかした範囲にとどまろうとしていることが浮かび上がってくる。

ブレ bambuに参加した国をいくつか
は、個別に、あるいは共に、NPT再検
討過程に関わるそれぞれの意見、提案
をブレ bambuに提出した。これらは、2000
年に開かれるNPT再検討会議への意
告がブレ bambuで作成される際の
基礎となる。以下で検証する非同盟諸
国と日本の主張はそれぞれ、それらのな
かのひとつである。

非同盟諸国の主張
非同盟諸国の主張は、「非同盟諸国
のワーキング・ペーパー」として、4月10日
にインドネシア代表によって発表された。
それを提案する陳述文は、NPTが核の
水平および垂直拡散をくい止める鍵だと
指摘したうえで、「条約の信頼性」の向上
を求めている。そのための「具体的な目
標」として、2ページ掲載「表1」の6項目が
掲げられた。

そのなかで先例課題として提起され
ているのが、「核兵器廃絶に向けた交渉
開始」である。提出すべきなことは、交渉を
ジュネーヴ軍縮会議（CD）に新たに特別
委員会を設置して行うべきであると主張
している点である。昨年8月にCDに提出
された非同盟28カ国提案の「核兵器廃
絶に向けての行動計画」（本誌29号）につ
いては、それを唯一の提案として強調す
るのではなく、考慮すべき一案と位置づ
ける。

果物市

韓国初の非核宣言の動き

韓国で地方自治法が成立したのは1994年3月、はじめの統一地方選挙は1995年6月に行われた。
その韓国で、初めて非核自立体宣言
をめざす努力が始まっている。成立する
までにまだまだ困難が予想されるが、東
北アジアの非核化にとって大きな意味を
もつ動きである。

動きがあるのはソウル近郊の果物
（クチチ）市。果物市は政府庁舎が集
まる人口約7万人の副政庁都市である。

韓国環境運動連合果物支部の金銃（キ
ム・ヒョン）さんによると非核宣言をする動
機づけとして二つをあげることができる。

一つは果物市だけでなく限定したもので
はないが、台湾の核軍備を朝鮮民主
主義人民共和国（北朝鮮）が受け入れ
貯蔵するという計画に対して、韓国内に
大きな反対世論が存在することである。

南北に関係なく、核に汚染されないキ
顯現を子孫に残したいという願いが、そ
こには込められている。

もう一つは核兵器をもっては工事的に
作られた果物市に特有の問題がある。
それには核兵器による攻撃を想定したと
考えられる大きな地下シェルターが、戦
時下の政庁のために作られているという。
そこで非核都市宣言をして核攻撃を
回避しようという動機づけが市民の間に
存在する。次ページに示したものは、まだ
未完成の宣言文の粗案に過ぎないが、
宣言の問題意識を知るうえで役にたつ
と思われるもので資料として掲載した。

金銃さんは、韓国全国の先導的な
役割を果たしたいと願う仲間をかかって
きる。6月下旬に開かれる市議会が、一つ
の出発となる。
けている。
「法的拘束力のある消極的安全保障につながる交渉の開始」も求められた。
「法的拘束力」という点が、非同盟諸国
の要求の中心である。核兵器が、核兵器
による威嚇もしくは使用を、非核兵器
国に対して行わない、ということを保証
する法的枠組みは、今、ここ存在しな
い。1995年のNPT延長会議で合意され
た「原則と目的」8項に、「（消極的安全
保障へ向けた措置）は国際的に法的拘
束力のある条約の形態をとることができ
る」という、あいまいな表現があるのみで
ある。これには、非同盟諸国の求めた法
的保証が、核兵器国の反対にあい、この
ような中途半端な表現になってしまい、
という経緯がある。非同盟諸国は、この
点を再び取り上げた。

NPTの普遍性の重要性と強調され
た。これはNPT未加盟国の国際に加盟を
することで、核歓歎国でNPT未加盟のイン
ド、バキスタン、そしてときにイスラエルを
含まずに置いている。前述では、名指し
で避けたが、中東一国の加盟に「条
約の遅滞なく加盟を求める事は不可
欠」と述べられている。

日本の主張
一方、日本の意図は、「再検討過程で
考慮されるべき実現可能な要素」という
表題で、4月11日に発表された。核不拡
散と核軍縮、核エネルギーの平和的利
用におけるNPT体制の重要性を指摘
したうえで、「核兵器のない世界」という近
極目標に向けて、「安全保障の国際的
環境を考慮しながら、現実で効果的
な核軍縮の手段をひとつのとみ積重

（予備的資料）

韓国・果川市 非核・平和都市宣言文（初案）

1945年8月、日本の広島、長崎において、原爆の爆
撃が投下され、数万人の命が失われた大惨事が起
きた。原爆の威力は、人類を破壊に導くかと思わ
れないという危険を伴っていた。

その後1986年4月、旧ソ連のチェルノブ
イリ核発電所が爆発した。チェルノブイリの
悪臭は、にぎわいに人間社会を従順にした。
今でも、核があすが国を破壊するのを恐れて
いる。

核の平和的利用」という名の下で、科学の
歪曲された使用は、徐々に週る人類の終
末を暗示している。

そして今、

果川市は核のゴミ捨て場になるとして
いる。自国の毒性廃棄物を自国で処理
するという国際的協定を破り、台湾と北

朝鮮は秘密協定を締結し、朝鮮半島に
核のゴミを傾けるという行為は、平和を維
持し続ける世界の仮面をするための希望
を無視や踏みにじる、野蛮な行為に他
ならない。

また果川市民とともに、果川半島が核に
汚染されるのを監視し、より安全なクリ
ーンエネルギーを推進し、環境都市果川をつく
るために努力するものである。

われわれは次のように宣言する。

1. 果川市は核実験や核攻撃から除外され
ることを要求する。
2. 果川市は核に関するあらゆる物質の
生産、輸送、搬入、貯蔵を禁止すること
で、果川市は国家間の核廃棄物の移動に反
対する。
3. 果川市は核エネルギーが21世紀のオルタナティブエネルギーになること
を明らかにし、生産性をさらにクリーン
で安全なエネルギー補給の先駆に立
つものである。

1997年6月1日 第46号 核兵器、核実験モニター
2 1996年4月23日 第33号 郵便物質認可 毎月2回1日、15日発行
に黒の核兵器廃絶への国際法の再検討を求めるよう
求めるものである。この中に核兵器廃絶への国際法
の改革を求める動きが含まれており、これら
を国際的な枠組み内で進めることが必要である
とされている。

资料
NPT再検討会議準備会の代表に対する
核廃絶2000の申し入れ

（1997年4月、ニューヨーク国際連合にて）

核不拡散条約の履行を強化し、この普通
性を達成するために、われわれはこの準備
会に、1995年4月の核廃絶2000の声明と密接
に結びついた以下のように呼ぶべき声明を
出すことを求める。

（1）国際司法裁判所によって、あらゆる分野
にわたる核軍縮へのつながりと交渉を完了
させるよう強く要求されると、1996
年12月10日に採択された国連総会決議
51/45Mと、（NPT）第6条の義務にしたが
い、すべての核兵器を禁止し廃絶する核
兵器禁止条約の交渉を1997年中
に開始すること。

（2）核廃絶のためのキャリア委員会によっ
て示唆されたこと、すなわち核兵器の廃絶
に対する国際的な核軍縮の過程を、核実験の終結
と国連体系の再構築のための交渉の
開始、そして核兵器国間における相互
第一不使用の同意と非核兵器国に対する
不使用の約束に関する同意など、核の
脅威を減じさせるための措置を即座履
行すること。

（3）NPT第1条と第2条にしたがい、外国から
ならびに公海から、すべての核兵器を撤
去すること。

（4）未漏臨界実験を中止すること。

（5）国のB61-11地中爆弾型核弾頭とB61
誘導爆弾型爆弾、フランスのトリオンフ
潜水艦、そしてアメリカ、ドイツのトライド
潜水艦など、新設計、改良もしくは新生
産の核兵器や運搬手段の開発を中止し
破棄すること。

（6）フランスのメディア・ジャーナリスト、およ
びノルウェーの核兵器（国立研究施設）、高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチorningで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチornmentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃縮
トリウム・イノウピーチ Ornamentで高濃すぎ
CTBTが重要と言うなら、その土台を破壊し、インドなどの署名の妨げとなる米国の未発表実験に批判の声を上げるのはなぜだろう。非核圏の重要性を
説かず、北東アジア非核圏の創設に消極的なのはなぜだろう。

最後に、NGOネットワーク「核廃絶2000」が、NPT再検討会議準備会に要求した申し入れ内容を、資料として3ページに
掲げる。（笠生英人、梅林宏道）

●6月15日 強制使用期限切れの米軍12箇所の一
部用地、改正措置法に基づき運用する。
●6月15日 米国務省の参謀本部長、沖縄返
還5周年に当たって、即座に緊急措置を
講ずるとして、米軍の負担軽減を求める
声明を発表。
●6月15日 沖縄県代表者を含む5・15平和と
平和を求める有志が大規模な全国連携
の開催を求める声明を発表。

公募 PCDS
日本ファシリテーター
PCDS（太平洋圏素費拡充機関）では、日
本の窓口となる役割をもつファシリテー
ターの交流を募集しています。無給
ボランティアですがアジア太平洋各国
の平和運動家ともに活動できると
他に寄せられない機会が見られる。

くわしいことを、お知りになりたい方は
表記の事務所までご連絡下さい。

読者のみなさんへ
宛名ラベルのメッセージについて
定期購読者は「定」が入っていま
す、その他の方々は、定期購読してよ
さと損いです。いえる場合は、ご一報
下さい。

郵便による定期購読をお勧めします。月 2 回発行で、年間料￥5,000- (6ヶ月
￥2,500-)です。タイトルの下に記載した郵便振替口座でお振込み下さい。

次の件についてこの号の発行に参加・協力しました。

昭和みどり（PCDS）、笠生英人（平和資料協同組合）、加藤まささき、飯田治子（平和資料協同組合）、中田真里子（平和資料協同組合）、梅林
宏道

1996年4月23日 第3種郵便物認可 毎月2回1日、15日発行

(作成：笠生英人、服部信男)

CWC＝化学兵器禁止条約／EU＝欧州連盟／IFP＝若手日本共産党／ICJ＝国際司法裁判所／ICJ＝国際刑事裁判所／KEDO＝朝鮮半島核問題六方会合／KEDO＝韓国核問題六方会合／KEDO＝朝鮮民主主義人民共和国核問題調査機関／NATO＝北大西洋条約機関／OPCW＝化学兵器
禁止条約機関／SAC＝沖縄に関する特別活動委員会／START＝戦略核裁減条約／WBT＝ホワイ
トビュー／WT＝ワンタワントン／タイムズ

老朽化で、ミサイル発射台の自動的「電撃状態」に移行、CIAの秘密報告を米WBTが報道。

●6月16日 日本政府の国家安全保障
会議に正式な言及を行ったことで、政府が米国核
政策の核拡散防止に取り組むことを示唆した。

●6月13日 KEDO理事会が、米国政府の
核裁減を求める決議を通過した。

●6月13日 酷な監視下で核実験が行われ
る武漢核実験所が、中国核実験所と同様に核実験
する核実験所であると判断された。

●6月15日 米国務省の参謀本部長、沖縄返
還5周年に当たって、即座に緊急措置を
講ずるとして、米軍の負担軽減を求める
声明を発表。

●6月15日 沖縄県の自治体を含む5・15平和と
平和を求める有志が大規模な全国連携
の開催を求める声明を発表。

日本ファシリテーター

PCDS（太平洋圏素費拡充機関）では、日
本の窓口となる役割をもつファシリテー
ターの交流を募集しています。無給
ボランティアですがアジア太平洋各国
の平和運動家ともに活動できると
他に寄せられない機会が見られる。

くわしいことを、お知りになりたい方は
表記の事務所までご連絡下さい。

読者のみなさんへ
宛名ラベルのメッセージについて
定期購読者は「定」が入っています
す、その他の方々は、定期購読してよ
さと損いです。いえる場合は、ご一報
下さい。

郵便による定期購読をお勧めします。月 2 回発行で、年間料￥5,000- (6ヶ月
￥2,500-)です。タイトルの下に記載した郵便振替口座でお振込み下さい。

次の件についてこの号の発行に参加・協力しました。

昭和みどり（PCDS）、笠生英人（平和資料協同組合）、加藤まささき、飯田治子（平和資料協同組合）、中田真里子（平和資料協同組合）、梅林
宏道

1997年6月1日 第46号 核兵器・核実験モニター